



京都 YWCA

7 2016

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

熊本地震を体験して

私は4月14日、16日に発生した熊本地震を体験しました。14日、いつも通り過ごしていたら地面の方から「ドンッ」という大きな音と突き上げるような揺れを感じました。電気も消え、何が起こったか分かりませんでした。その後、家には危険なと思い近くの小学校に避難し、何度も余震を感じながら朝までグラウンドで過ごしました。16日は前震と比べものにならないほど揺れ、ライフラインも全て止まってしまいました。この日は朝まで高校に避難していましたが、通っている大学に多くの方が避難していると聞き、大学に向かいました。



大学ホールでの避難生活

障がい者と高齢者のためのスペース設置

大学には1つの建物に約700の方が避難していました。皆疲れ切っていました。食料も水もありませんでした。そんな中、障がい者の自立生活センターの方々が大学に避難してきました。ほとんどの方が車椅子で、避難してきてからずっと座りっぱなしでしたが、教室には人が多く横になれない状態でした。そこで大学が、障がい者と高齢者のためにホールを開放することになりました。椅子を全て片付け、体育館から体操マットを運び横になることができる空間を作りました。中央にパーティションを置き男女に分かれました。その他にも、介護実習室からシーツやタオル、ポータブルトイレなどを運び入れました。このホールでは介護職の方や教員、学生が交代で24時間介助や見守りを行いました。皆で協力してアイデアを出し合い、不安な中でもできるだけ快適に明るく過ごせるように工夫しました。日が経つにつれ、徐々に会話も増えてきて最初の暗い雰囲気はなくなってきました。

各地からのボランティアや支援物資に感謝

また学生ボランティアだけでなく、鹿児島や大阪、福島など日本全国から多くの方が車で駆けつけてくださり、とても嬉しかったです。また全国のYWCA、韓国YWCAの方々が心配してくださり、多くの支援物資が何度も届きました。大学にはたくさんの支援物資が届いていましたが、その中で箱にYWCAの文字が見えると嬉しく、元気をもらいました。また、私が4月末に京都YWCAへ行った際も、皆さんがたいへん心配し応援してくださり、とても嬉しかったです。熊本YWCAの会員さん方も自ら被災されている中、お洗濯ボランティアなどをしてくださいました。今回の地震で、改めてYWCAの繋がりの強さを実感しました。本当にありがとうございました。



送られてきた救援物資

今は学校も再開して徐々に日常に戻つつあります。大学に避難していた方達は、全員自宅や新居に移られました。しかし、まだまだ余震が続き安心できません。私の友人には、怖くて夜寝ることができないという人もいます。障がいのある方で約1ヵ月ぶりに自宅に戻ったら、筋力が低下して以前のように動くことができなくなったという方もいます。また益城町や阿蘇など、被害の大きかった所は今も多くの方が避難しており、日常に戻ることが出来ていません。1日も早く日常に戻れるよう、私自身もボランティアなどに参加したいと思っています。

(熊本 YWCA 坂本真紀)

シリーズ 若者からの発信 ①

日本社会は今「世代間格差」や「将来世代への負担」など大きな課題を抱えています。未来を展望するため、本号よりYWCAに関係する若い人たちの声をお届けします。初回は4月より主に京都YWCAうららかふえ担当で勤務されている御前麻里さんです。

日本軍「慰安婦」問題の解決を目指す運動を通して

私が現在関わっている運動の中で、最も大きな比重を占めているのが日本軍「慰安婦」問題である。まずは私がこの問題に取り組むようになった経緯を記しておきたい。私は、大学3回生の時に授業で「平和学」に出会い、第二次世界大戦における日独の戦争犯罪と戦後の「過去」との取組みについて学ぶ中で、日本の加害の実態を知った。その時初めて日本の植民地支配・戦争によって犠牲となった被害者の顔が見え、彼らにとって戦争は未だ「終わっていない」ことに衝撃を受けた。特に性・民族・階級という複合的な差別を背景に持つ「慰安婦」問題に関心を持ち、大学院でより専門的に研究を行った。

この間、2013年の橋下徹大阪市長（当時）の「慰安婦」容認発言、2014年の朝日新聞の「吉田証言」をめぐる「誤報」問題、そして昨年末の被害者の頭越しの「日韓合意」等、歴史を歪曲し「慰安婦」問題をなかったことにしようとする動きが政府レベル・民間レベルで進行し「慰安婦」問題

を巡る状況はますます悪化している。このような歴史修正主義の激化と対になっているのが、憲法改悪や安保法制の整備などの「戦争のできる国づくり」である。

しかし、このような新たな「戦前」の出現は、一部の極右勢力によってのみもたらされたものではないだろう。70年余りの間、大多数の日本人が自らの戦争責任の清算を怠り、アメリカの「核の傘」の下で沖縄などの「周辺」に負担を押し付け、「戦後」の安楽な生活を独占的に享受してきた。輝かしく語られる「戦後」の「平和」こそ、余りにも脆いものだったのではないか。だとすれば、今度こそ植民地支配・戦争という加害の責任を清算し、真に平和な社会を築かなければならない。それは、「慰安婦」問題への対応を通して堂々と「レイプ容認」のメッセージを発し続ける政権に「NO」を突きつける闘いでもある。

（御前麻里）

自立援助ホーム「カルーナ」教育奨励基金を設立しました！

自立援助ホーム「カルーナ」では、入居していた女性が退居した後、働きながら高等教育を受けられるようにサポートする“給付型”の「教育奨励基金」を設立しました。今、その基金に賛同してくださる方を募っています。なぜ、退居者に支援が必要なのでしょう。他の奨学金などでは不十分なのでしょうか。

カルーナの利用者の多くは保護者から十分な経済的・精神的サポートなく育ってきました。高校や専門学校に通う学生であっても自立援助ホームは20歳の誕生日を迎えると退居しなければなりません。学費は学生支援機構等の奨学金を借りることもできますが、毎月の生活費のため働くことが必須です。学業と就労の両立のために、当然、無理を重ねることになります。もしも、心身のバランスを崩し、仕事に行けなくなると、収入が途絶え生活が困窮し、学校にも行けず、ついに奨学金返済などの借金だけが残ることは珍しくありません。学歴や資格を身につけることで人生の可能性を広げ、これまで叶えられなかった「夢」や「やりたいこと」を後押しして、今後の「生きる力」につなげ

ていくことがとても大切なのです。

また、学生に限らず、思わぬ病気・事故などから働けなくなる場合があります。一度困窮してしまうと、生活を立て直すことは大変難しいので、やはり手助けが必要になります。

カルーナ基金の内容は

1. 高等学校以上に在学中の退居者で生活支援が必要と認定された者に、上限2万円/月を支給する。6ヵ月ごとに認定見直しを行う。返済義務はない。
2. 退居者が予期せぬ理由で経済的に困窮した場合、一時的に貸与する。無利子返済とする。

この春から専門学校に通う退居者2名に毎月2万円ずつの支給を開始しました。

働きながら学ぶ道を勇気をもって選び社会に漕ぎ出した彼女たちを今後も支えていくために、皆さまのお力をお貸しいただけますようお願い申し上げます。詳細は事務所までお尋ねください。

（岩佐恭子）

「愉気(ゆき)の手」で、自分育てをしませんか？

親・子育て支援活動委員会では、「体」「心(精神)」「食」を生活の基盤と考えたプログラムを企画していますが、5月17日に「愉気(ゆき)の手」について知り、体験するプログラムを実施しました。講師は野口整体指導者の模本斗志枝さん。整体というと整骨院の延長のようなイメージがありますが、野口晴哉が創設した整体はそれとは全く異なり、身体に視点をあてた精神修養とでも言えるものです。

プログラムは手首を緩めることから始まりました。2人組になってぶらぶらぶら。それでも手首の硬さのとれない人は、お茶碗を右手に乗せ、落とさないように手首を大きく回転させる運動をします。その不思議な動きはガムラン舞踊のよう



です。次は肘、肩と意識的に力を抜いていく練習をし、胸を柔らかくします。参加者が模本さんの胸を手のひらで押すと、フカフカのおふとんを押しているような感じです。いくら力を込めようとしてもやんわり包まれてしまい、「のれんに腕押し」のようでした。

続いて、緩めた手首で優しくあおいだ団扇の風と、硬い手首で力いっぱいあおいだ風の違いを体感します。バタバタあおいだ風は風量がたくさんあっても、身体の表面にあたって跳ね返される感じがします。団扇ですっと身体を切り撫で、やわらかな手首の動きで風を送ると、身体の中を風が通り抜けていくような清々しさです。

上記以外にも良い言葉が身体に影響を与えることなどを体験し、最後に「愉気」の手を体感しました。愉気はお豆腐をそつと持つような優しい気持ちで手を当てること。掌(たなごころ)を通してその温かさを伝えます。転んで泣いている子に「いたいの、いたいの、とんでいけ」と当てる手が「愉気の手」。そこには相手を思いやる心、本能的な動きがあります。「力で人を動かそうとしても動かない。それは、家庭の中だけでなく国や世界、広いところまでつながっている」という参加者の感想からも分かるように、平和を創り出すヒントが「愉気の手」にあるような気がしました。(別所加恵)

にほんご教室「洛楽」事情

京都YWCA内に外国人を対象にした、にほんご教室「洛楽」があるのをご存知でしょうか。現在、アジア各国、欧州各国、アメリカ、メキシコ、オーストラリアの全15ヵ国、36名の受講生が、週1回1時間30分、日本語を学んでいます。登録講師は16名で、それぞれがクラスを持って頑張っています。1クラスは1~4名ぐらいです。「洛楽」の特徴は、講師はボランティア、日本語教師として専門の勉強を終えている、全員京都YWCAの会員(男性は会友)、木曜日に保育付きクラスを行っていることなどです。

受講生は、日本人の配偶者、留学生、研究生、日本が好きで日本に住み始めた人など様々ですし、日本語力や日本語を勉強する目的も様々です。日本語力によってクラス分けをしますが、勉強する目的は違うことが多いので講師は工夫を凝らします。月1回の定例ミーティングで勉強し合うこともあります。保育付きクラスがあるということで他の教室からの紹介で来る人も多く、現在もフィリピン、タ

イ、ロシアからのママたちが乳幼児を預けて勉強しています。留学生や研究生の中には、大学での授業も英語で行われ、クラスメイトも外国人だけなので日本にいながら日本人と話す機会がなく、洛楽で話せるのが嬉しいという人も結構多いのです。また毎週会って勉強していると友だち同士のような気分になって、帰りにお茶を飲みに行ったり、一緒に初詣に行ったり、生活の相談を受けたりすることも稀ではありません。講師にとっても、様々な国の情報や、そこに住んでいた人たちの生の声を聞くのはとても興味深く、本当に草の根交流だなと思います。

最近「洛楽へ来て初めて日本語を勉強することができた」と言ってもらえた講師がいたそうで、これ以上嬉しいことはありません。現在は外国人の防災意識の向上や、外国人の子どもの日本語支援などを模索中です。

(小寺敬子)

今後のプログラム

◎河合弘之弁護士監督「日本と原発 4年後」上映会

- 日 時：2016年 7月 18日(月・休)
午前の部 10:30～ 午後の部 14:30～
- 場 所：京都 YWCA
- 参加費：一般 1,000 円
京都 YWCA 会員、大学生以下、震災避難・移住者、障がい者 800 円
- 主 催：京都 YWCA 平和委員会

◎福島からのリフレッシュプログラム
受入れボランティア募集

今年も福島から外国にルーツのある小中学生を迎えます。プログラムボランティア募集中！

- 日 時：2016年 8月 4日(木)～8日(月)
- 場 所：京都 YWCA、宇治など
- 内 容：食事作り、京都・宇治観光、野外活動・制作活動など 部分参加も可能！！
- 申込み：要 7月 30日(土)まで
- 主 催：京都 YWCA 福島プロジェクト

◎「おはなしおばさん」藤田浩子さんから学ぶ
子どもと楽しむ遊び・お話作り

- 日 時：2016年 8月 7日(日) 13:00～15:00
- 講 師：藤田浩子さん(おはなしおばさん)
- 場 所：京都 YWCA
- 参加費：500 円
- 申込み：要
- 主 催：京都 YWCA ガジュマルの樹運営委員会

◎夏休みキッズデイアウト in ガジュマルの樹

- 日 時：2016年 8月 17日(水)～20(土)・22日(月)
10:00～17:00
- 対 象：小学生
- 場 所：京都 YWCA
- 参加費：1日参加 2,300 円
3日間参加 6,500 円
5日全部参加 10,000 円
- 申込み：要
- 主 催：京都 YWCA ガジュマルの樹運営委員会

ご寄付ありがとうございました。

2016年4月1日から5月31日
寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

廣田康子、森律子、匿名 2 名

各指定寄付

*多世代・多文化ふれあいコミュニティー事業に
むけた改修募金
森律子、別所加恵

*熊本地震被災者支援

木戸さやか、小寺敬子、横川宏美、池上信子、
別所加恵、青野美佐江、森岡恭子、梶川雅子、
文田則子、上田理恵子、神門佐千子、宮武恒夫、
宮武美知子、宮武聖史、川合裕子、上村愈巳子、
花岡正義、山本いづみ、安藤いづみ、井上依子、
植田武彦、熊本地震被災者支援募金(募金箱)

*福島プロジェクト

弘中奈都子、岡佑里子、
京都東山伝道所(春保養プログラムへ)

*親・子育て支援活動委員会

別所加恵、親子ライブラリー有志

*APT

本田次男、神岡茂子、森律子、神門佐千子、
村井京子、日本キリスト教団洛陽教会

*国際委員会

篠田茜、宮武美知子

*うららかふえ運営委員会

河野伴子、丸本準子、宮武美知子、小寺敬子

*会員・ボランティア活動推進委員会
伊原千晶

*自立援助ホーム「カルーナ」

千原真知子、伊原千晶、山本知恵、入順子、
三谷真一、別所加恵、神門佐千子、堀部碧、
有田孝子、上田理恵子、林衛、山崎美和子、
館山英夫、近藤八津子、大山悠子、松原千里、
上村京子、植松満里子、平尾剛之、実生律子、
丹波卯子、村上ヨシ子、小林總子、岩崎明生、
井上依子、匿名 1 名

*自立援助ホーム「カルーナ」教育奨励基金

千原真知子、近藤八津子、小室京子、上村京子、
平尾剛之、丹波卯子、
匿名 1 名

*賛助費

伊藤眞代、吉田繁、森律子、大岸素子、
井上裕也、浅野久代、清水義、井原圭子、
早川久仁子、船山昌代

あじさいバザール
協力者一覧

株式会社ユニティー、
山田松香木店、(株)ティ・エム・エス、
(株)マイチケット、
西京都共同購入会、飯室商店、
(有)プロジェN、
(株)一粒社ヴォーリス建築事務所、
(株)田中工務店、
(有)テラヲ貸物店、
伊那食品工業株式会社、
有田孝子、清水義、村井京子、
下村泰子、上村愈巳子、
池上信子、坪野えり子、
浅野久代、森律子、山本順三、
日本基督教団室町教会



5・6月/理事会報告

- 熊本地震募金を実施し、要望のあった緊急品17箱を福岡YWCAに送付(4/22)
- 全館避難訓練および「うららかふえ」避難訓練実施(5/21)
- 財務部2016年度ファンドレイジングチームを立上げる(賛助員・賛助団体拡大、物品寄贈企業開拓などに取り組む予定)
- 上京地域介護予防推進センター「健康教室」の日(第4月曜)の午後にはサラムカフェ開催(9月以降)検討
- 「子どもの貧困」に関するカルーナ連続公開講座を企画(6月、10月、11月)
- 8/27-28に会員制度、会則、次世代担い手養成等について話し合う合宿予定
- 2年間の「ふれあいコミュニティづくり」を総括する報告書を7月に発行予定
- 古本市をロビーにて開催中(7月末まで)

KYOTO YWCA No.533

2016年7月号(7月1日発行)

発行人 上村愈巳子
発行所 公益財団法人京都YWCA
京都市上京区室町通水上ル
電 話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352
e-mail office@kyoto.ywca.or.jp
U R L http://kyoto.ywca.or.jp
郵便振替 01080-9-1566
口座名義 (公財)京都YWCA
定 価 50 円